

中 央 区 内 景 気 動 向 調 査

令和6年10月調査結果

令和6年11月29日

中 央 区

— 総 括 —

令和 6 年 10 月の動き

中央区内における 10 月の現状判断 D I は合計で 53.9 と、前回調査から 0.5 ポイント低下している。景気の先行き判断 D I は合計で 51.7 と、前回調査から 7.2 ポイント低下している。

図表 景気の現状判断 D I、先行き判断 D I（合計）

(D I) 合計	令和 6 年			前回調査 からの変化
	6 月	8 月	10 月	
現状判断 D I	54.3	54.4	53.9	(-0.5)
先行き判断 D I	50.0	58.9	51.7	(-7.2)

目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
（別紙）調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

調査の概要

1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した 50 人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) の理由
- (3) (2) の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4) の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

4 調査月及び調査期間等

調査月は年 6 回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約 1 週間で、令和 6 年 10 月調査の調査票発送は 10 月 7 日（月）、回答期限は 10 月 17 日（木）である。

5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

6 有効回答率

調査客体 50 名に対し、有効回答客体は 45 名、有効回答率は 90.0%であった。

7 D I の算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する 5 段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（％）に乗じて、D I を算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0. 7 5	+ 0. 5	+ 0. 2 5	0

1 景気の現状に対する判断

3か月前と比較しての中央区内における現状判断D Iは合計で53.9と、前回調査から0.5ポイント低下している。分野別にみると、家計動向関連D Iは55.0と、前回調査から8.7ポイント上昇し、企業動向関連D Iは53.0と、前回調査から8.0ポイント低下している。構成比では、「良くなっている」と回答した人の割合が6.7ポイント減少し、「やや良くなっている」、「変わらない」と回答した人の割合が4.5ポイント増加した。

図表1-1 各分野における景気の現状判断D Iの推移表

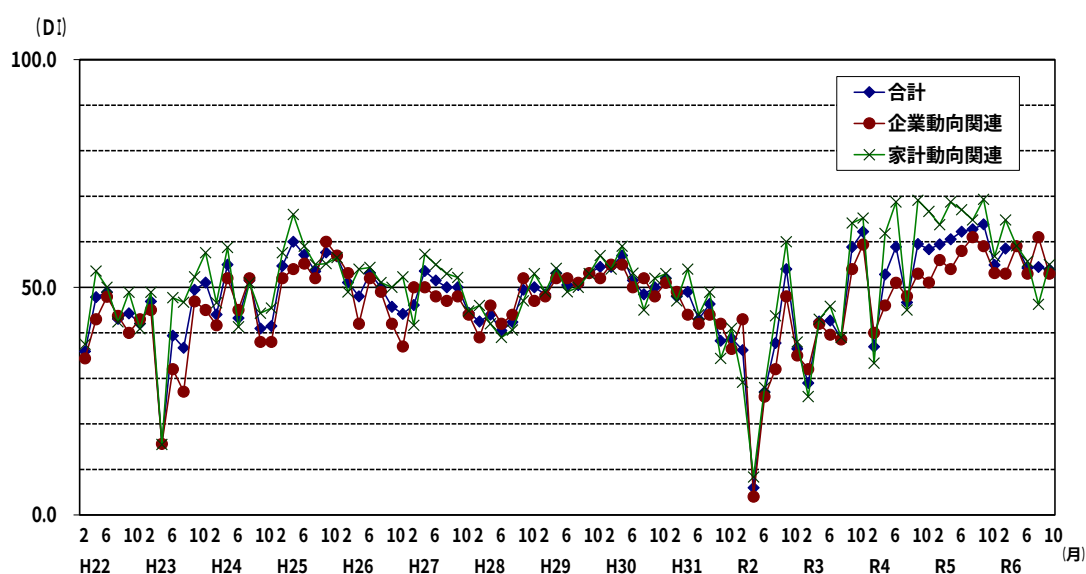
(D I)	令和6年	6月	8月	10月	(変化幅)
合計		54.3	54.4	53.9	(-0.5)
家計動向関連		55.7	46.3	55.0	(8.7)
小売関連		58.3	55.0	50.0	(-5.0)
飲食関連		—	—	—	(—)
サービス関連		41.7	50.0	58.3	(8.3)
住宅関連		—	—	—	(—)
企業動向関連		53.0	61.0	53.0	(-8.0)
製造業		55.0	50.0	50.0	(0.0)
非製造業		52.5	63.8	53.8	(-10.0)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表1-2 構成比

年	月	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
令和6年	6	4.3%	36.2%	36.2%	19.1%	4.3%
	8	11.1%	24.4%	42.2%	15.6%	6.7%
	10	4.4%	28.9%	46.7%	17.8%	2.2%
(変化幅)		(-6.7)	(4.5)	(4.5)	(2.2)	(-4.5)

図表1-3 各分野における景気の現状判断D Iの推移



2 景気の先行きに対する判断

2～3か月先の中央区内における景気の先行き判断D Iは合計で51.7と、前回調査から7.2ポイント低下している。分野別にみると、家計動向関連D Iは57.5と、前回調査から1.3ポイント低下し、企業動向関連D Iは47.0と、前回調査から12.0ポイント低下している。構成比では、「やや良くなる」と回答した人の割合が11.1ポイント減少し、「やや悪くなる」と回答した人の割合が8.9ポイント増加した。

図表 2-1 各分野における景気の先行き判断DIの推移表

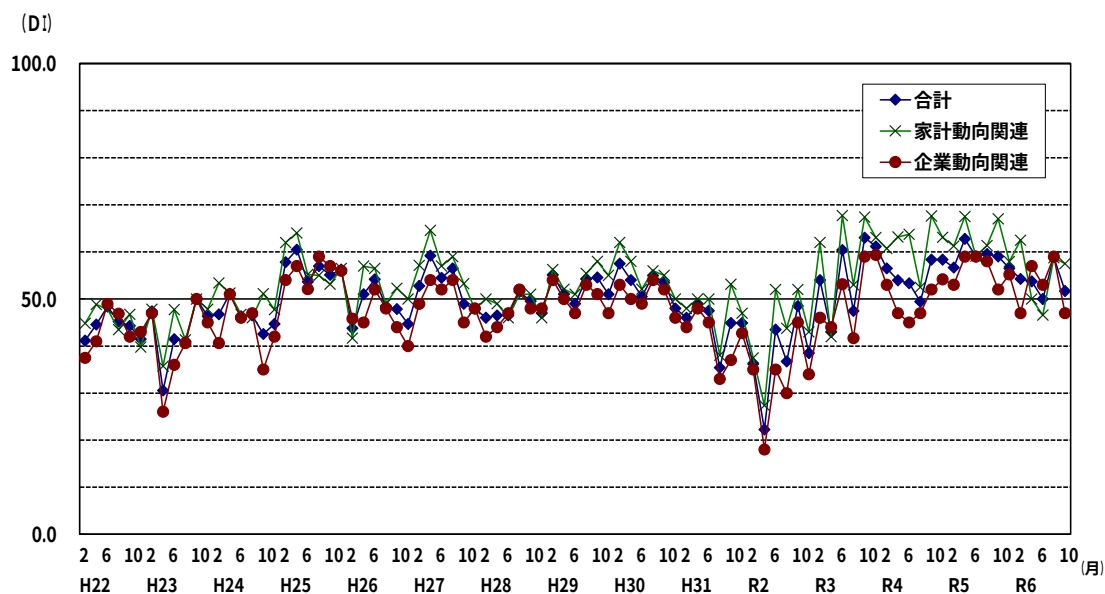
(D I)		令和 6 年			
		6 月	8 月	10月	(変化幅)
合計		50.0	58.9	51.7	(-7.2)
	家計動向関連	46.6	58.8	57.5	(-1.3)
	小売関連	50.0	55.0	50.0	(-5.0)
	飲食関連	—	—	—	(—)
	サービス関連	41.7	50.0	54.2	(4.2)
	住宅関連	—	—	—	(—)
	企業動向関連	53.0	59.0	47.0	(-12.0)
	製造業	40.0	45.0	45.0	(0.0)
	非製造業	56.3	62.5	47.5	(-15.0)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表 2-2 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
令和6年	6	2.1%	21.3%	51.1%	25.5%	0.0%
	8	6.7%	33.3%	48.9%	11.1%	0.0%
	10	4.4%	22.2%	51.1%	20.0%	2.2%
(変化幅)		(-2.3)	(-11.1)	(2.2)	(8.9)	(2.2)

図表 2-3 各分野における景気の先行き判断DIの推移



3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気の水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表3－1 各分野における景気の現状水準判断D Iの推移

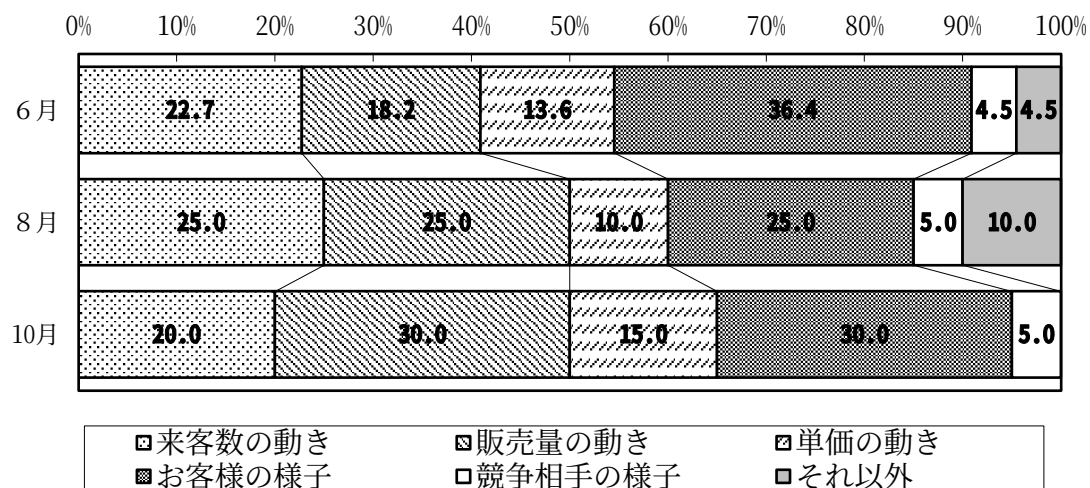
(D I)	令和6年		
	6月	8月	10月
合計	56.4	52.8	54.4
家計動向関連	64.8	52.5	60.0
小売関連	64.6	62.5	65.0
飲食関連	—	—	—
サービス関連	62.5	58.3	62.5
住宅関連	—	—	—
企業動向関連	49.0	53.0	50.0
製造業	50.0	50.0	45.0
非製造業	48.8	53.8	51.3

（備考）家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

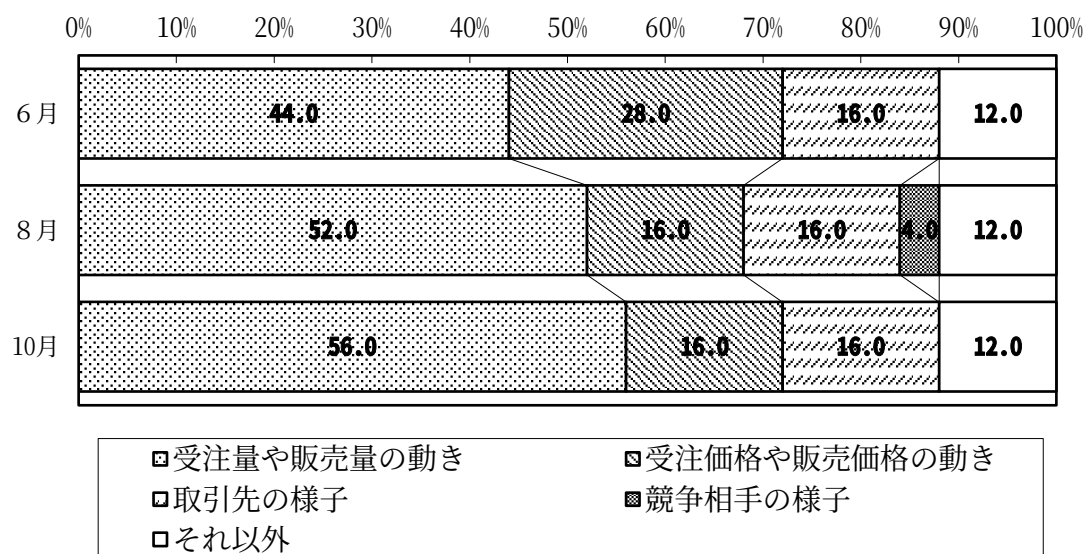
（注）景気の現状をとらえるには、景気の方方向性に加えて、景気の水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

4 (1) 景気の現状に対する判断理由着目点

家計動向関連



企業動向関連



注) 本グラフは景気の現状に対する判断理由着目点の構成比を示している。
割合が0%の場合、数値は表記していない。

4 (2) 景気の現状に対する判断理由

(－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	都市型ホテル (営業担当)	来客数の動き	・インバウンドの宿泊需要が増加している。
	やや良くなっている	衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・来客数は前年比132%であり、特にインバウンドの来客数は前年比192%とほぼ倍増している。インバウンド向けの商材を増やしたこともあり、売上が順調に増加している。
		高級レストラン (副店長)	単価の動き	・工事が終わってフリー客の来店がかなり増えている。高単価のコースも多く注文されている。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・夏の暑さが異常なほどに続いた結果、観光客の足出が悪くなり、売上に相当響いている。
		都市型ホテル (経営者)	単価の動き	・外国人客の増加に伴い、客単価が上昇しつつある。
	変わらない	一般小売店「文具」 (販売担当)	お客様の様子	・良い状態で変わらない。相変わらずインバウンドの来店比率が高い。欧米人に代わって中国人が急速に増加している。
		百貨店(総務担当)	来客数の動き	・10月初旬から1週間程度の国慶節により、中国本土からの客を皮切りに、訪日観光客は前月以上に増大しているものの、値上げ等を要因に国内客の不調が継続している。
		百貨店(広報担当)	お客様の様子	・消費の2極化が続き、ハレの日消費、高付加価値消費の底堅さは変わらない。一方で、免税売上の推移は3か月前と比較すると落ち着いている。
		高級レストラン (経営者)	お客様の様子	・遅めの時間帯に外国人客の来店が目立つ。個室希望の予約が圧倒的に多く、かつ低価格帯の注文が多い。土曜以外の来客数は平均している。
		一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・何しろ暑く、観光客やその他の客も来てくれない。また、新型コロナウイルス感染症の発生以来、夜10時以降は人が出歩かなくなっている。
		旅行代理店(店長)	販売量の動き	・来客数や販売量などには大きな変動がない。
		通信会社(営業担当)	お客様の様子	・ユーザー対応において目立った変化はみられない。
		理容室(経営者)	お客様の様子	・相変わらずインバウンドの来店があり、売上が若干伸びている。近くのホテルから来店する客もいる。
	やや悪くなっている	一般小売店「事務用品」 (営業担当)	販売量の動き	・受注量を見ると、例年同時期と比較して10%程度落ち込んでいる。イベント等が復活している割に動きは余り良くない。
		百貨店(総務担当)	販売量の動き	・販売量は依然として前年を上回っているものの、インバウンドも落ち着きを見せており、身の回りの景気は減速している。
	悪くなっている	－	－	－
企業 動向 関連	良くなっている	○	○	○
	やや良くなっている	建設業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・受注量が多いが、人手不足のため受注の見送りが多々出ている。
		建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・取引先からの工事依頼が増えている。
		通信業(営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・仕事のやり方が変わり、それに合わせたシステム構成変更の提案件数が増えている。
		不動産業(企画担当)	受注量や販売量の動き	・区内のオフィスビル空室率は3か月連続で改善が続く、1年前と比べると1.1%以上低下している。区内のマンション販売は絶好調で、物件によっては説明会への参加も抽選となっている。
		卸売業「機械器具」 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・受注残が予想より多く、今月、来月はいつもより少し良い。
	変わらない	出版業(営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・毎年この時期に刊行される年度版雑誌の広告をセールしているが、広告点数、受注額共に前年を下回っている。広告も即決はほぼなく、何度も値引きしないとイケない。
		卸売業「機械器具」 (経営者)	受注量や販売量の動き	・このところ低水準で落ち着いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		経営コンサルタント	取引先の様子	・3か月前から現在まで来客数に特に大きな変化はない。今後も大きな期待はできない。
		その他サービス業「ビルメンテナンス」（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・3か月前と比較すると、受注価格の動きはほぼ変わらないままである。
	やや悪くなっている	新聞業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・10月は衆議院議員選挙に関連する受注が新規に見込めるため、その他の不調業種の落ち込み分をある程度は補えるとみている。
		出版業（経営者）	それ以外	・物価上昇による家計の圧迫が最大の問題である。
		卸売業「繊維・衣服等」（経理担当）	取引先の様子	・競争相手も含め、良いという話を聞かない。
		その他サービス業「造園・園芸」（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が伸び悩んでいる。資材費が上がっている。
	悪くなっている	○	○	○

4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

(－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	一般レストラン（経営者）	・秋の気配が近づいて気温が下がってくれば、観光客が増えてくるのではないかと。
		都市型ホテル（営業担当）	・秋の行楽シーズン、お祝い、クリスマス、正月に人がどう動くかだが、見込みはある。
	やや良くなる	高級レストラン（経営者）	・例年の繰り返しになるが、気温の低下に合わせて冬物のメニューが多くなり、鍋物等の注文が増えるとみている。
		高級レストラン（副店長）	・年末年始はかなり問合せがあり、既に予約が取れない日もある。
		一般レストラン（経営者）	・これから涼しくなってくれば客が戻ってきてくれると期待している。
	変わらない	一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	・気候の影響もあると思うが、動きが良くない。停滞している感覚がある。
		一般小売店〔文具〕（販売担当）	・衆議院議員選挙と国内の不安要素はあるものの、インバウンドは変わらず増加しており、強い。
		一般小売店〔食品〕（店長）	・売上は順調に見えるが、原材料価格の高騰や最低賃金の引き上げで利益は上らず、設備のメンテナンスにも費用が掛かり、苦しいのが現状である。
		百貨店（総務担当）	・為替を注視する必要があるが、140円程度の円高方向への振れでは訪日観光客の消費マインドは変動しないと考えられるので、年末年始に向けて引き続きインバウンドは強さを維持するものとみている。一方、国内客に大きな復調はみられない。
		百貨店（広報担当）	・消費の2極化傾向とインバウンドの動向に、プラス、マイナス含めて、今のところ大きな変化が起こる材料が見当たらない。
		百貨店（総務担当）	・賃金の伸びが物価上昇に追い付かず、個人消費の抑制要因となってきたが、少しずつ給与、ボーナス共に増加基調にあり、改善が見込まれる。とはいえ、多くは貯蓄に回るであろうし、衆議院議員選挙、米大統領選挙の結果次第で大きく変わるとみられ、予想は難しい。
		コンビニ（店長）	・インバウンドの需要はややあるものの、国内消費としては、相次ぐ値上げによる買上点数の減少や、より低価格の物を購入することがごく当たり前になっている。
		衣料品専門店（店長）	・ここ数か月はインバウンドの買上も前年より落ち着いているため、現状維持が精一杯である。
		都市型ホテル（経営者）	・円安傾向にあり、消費者の動向が弱含みである。
		旅行代理店（店長）	・物価高や円安傾向が続くと見込まれるため、来客数や販売量は大きく回復しない。
		通信会社（営業担当）	・良くなる要素は見当たらず、内閣改造が景気にどう影響するか不明である。
		競馬場（職員）	・物価上昇や株価の下落が見込まれる。
	やや悪くなる	一般小売店〔和菓子〕（経営者）	・販売量が例年よりもいまだ伸びてこない。客単価も低調である。
		理容室（経営者）	・はがき代、消耗品、ガス、水道、電気代の値上がり、賃上げなど、全てにおいて値上げラッシュである。その割には価格転嫁ができない現状がある。
	悪くなる	－	－
企業 動向 関連	良くなる	－	－
	やや良くなる	新聞業（営業担当）	・日米両国の選挙が終われば世相も落ち着き、景気はある程度回復するとみている。
		建設業（経営者）	・来年以降の仕事の依頼が今から増えている。
		通信業（営業担当）	・1案件当たりの利益率が上がってきている。
		不動産業（企画担当）	・オフィスビルへの新規入居及び増床の問合せは堅調である。賃料坪単価も6か月連続で上昇傾向にあり、この傾向は当面続く。
		卸売業〔機械器具〕（営業担当）	・年末に向けて受注量が増えてくる。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・当社の予算的に上がる方向と見込んでいる。年末年始にかけて突発的な案件も多く期待できる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	出版業（営業担当）	・国内外の政治状況が不透明なことに加え、生活必需品の値上げが続いている。出版物が売れる状況にはなく、良くなる要素が見当たらない。
		印刷業・製本業（経営者）	・これから閑散期に入るため、受注量が減少する見込みである。
		建設業（営業担当）	・衆議院議員選挙の結果により景気に変化が起きるとみている。
		建設業（経営者）	・物価の上昇と賃金の上げ幅を考えると、変わらない。
		金融業〔証券〕（営業担当）	・米国の政策金利低下が始まったものの、雇用統計は比較的堅調である。一方で、国内では住宅ローン金利が上がり始めた割に物価上昇もあって景況は良くなく、為替も再び円安傾向と、ほぼ固まったままの状況である。これまでは自動車などの輸出系と都市部の不動産が景気を引っ張ってきたが、さすがに息切れも見えてきており、景況を良い方に判断するのは難しい。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（経理担当）	・当社の数字はそこまで悪くない。
		卸売業〔飲食料品（鮮魚）〕（経営者）	・当地域のインバウンドは、キャパシティ的に今がピークである。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	・特に変化の起きる兆しがみられない。
		卸売業〔機械器具〕（支社長）	・物価が高止まりしている。
		その他サービス業〔造園・園芸〕（営業担当）	・秋冬はイベントシーズンのため大型案件も多いが、それらの受注が順調とはいえない。
	やや悪くなる	出版業（経営者）	・物価の上昇による家計圧迫が最大の問題である。
		印刷業・製本業（営業担当）	・エネルギー価格や原材料費の高騰がまだ続いているため、少なくとも短期的には今より悪化する可能性が高い。
		輸送業（従業員）	・当社の状況が良くない。給料のベースアップは期待できない。ボーナスも同様で、年収は10年間ほぼ増えていない。
		通信業（営業担当）	・利上げの影響や更なる円安の可能性が景気を押し下げる。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（経営者）	・気温が高すぎて、季節に応じた商売に悪影響が出ている。原価も上昇しており、値上げせざるを得ない。
		経営コンサルタント	・総理大臣が変わり、株価が上下に振れている。物価が上がっていくなか賃金が上昇しないため、現状より悪くなっているのではないかと。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（管理担当）	・大口案件の受注が減る。
	悪くなる	建設業（営業担当）	・受注が伸びない。

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)
合計		50
家計動向関連	家計動向関連	25
	小売関連	15
	商店街・一般小売店	5
	商店街代表者	0
	一般小売店経営者・店員	5
	百貨店	4
	百貨店売場主任・担当者	4
	スーパー	2
	スーパー店長・店員	2
	コンビニエンスストア	1
	コンビニエリア担当・店長	1
	衣料品専門店	2
	衣料品専門店経営者・店員	2
	家電量販店	0
	家電量販店経営者・店員	0
	乗用車・自動車備品販売店	1
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	1
	その他小売店	0
	住関連専門店経営者・店員	0
	その他専門店経営者・店員	0
	その他小売の動向を把握できる者	0
	飲食関連	4
	高級レストラン経営者・スタッフ	2
	一般レストラン経営者・スタッフ	2
	スナック経営者	0
	その他飲食の動向を把握できる者	0
	サービス関連	6
	旅行・交通関連	3
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2
	旅行代理店経営者・従業員	1
	タクシー運転手	0
	通信会社	1
	通信会社社員	1
	レジャー施設関連	1
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0
	ゴルフ場経営者・従業員	0
	パチンコ店経営者・従業員	0
	競輪・競馬・競艇場職員	1
	その他レジャー施設職員	0
	その他サービス	1
	美容室経営者・従業員	1
	その他サービスの動向を把握できる者	0
	住宅関連	0
	設計事務所所長・職員	0
	住宅販売会社経営者・従業員	0
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0
	その他家計の動向を把握できる者	0
企業動向関連	企業動向関連	25
	農林水産業従業者	0
	鉱業経営者・従業員	0
	製造業経営者・従業員	5
	食品製造業	0
	繊維工業	0
	家具及び木材木製品製造業	0
	パルプ・紙・紙加工品製造業	0
	出版・印刷・同関連産業	5
	新聞業	1
	出版業	2
	印刷業・製本業	2
	その他出版・印刷・同関連産業	0
	化学工業	0
	石油製品・石炭製品製造業	0
	プラスチック製品製造業	0
	窯業・土石製品製造業	0
	鉄鋼業	0
	非鉄金属製造業	0
	金属製品製造業	0
	一般機械器具製造業	0
	電気機械器具製造業(精密機械を含む)	0
	輸送用機械器具製造業	0
	その他製造業	0
	非製造業経営者・従業員	20
	建設業	4
	輸送業	1
	通信業	2
	金融業	2
	不動産業	1
	卸売業	6
	繊維・衣服等	2
	飲食品	1
	建築材料・鉱物・金属材料等	0
	機械器具	3
	その他卸売業	0
	サービス業	4
	広告代理店・新聞販売店[広告]	0
	司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等	1
	コピーサービス業	0
	その他サービス業	3
	その他非製造業	0
	その他企業の動向を把握できる者	0